

Title	メガトレンド
Author(s)	菊野, 亨
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 109, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66287
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

メガトレンド

大阪大学計算機センター教育広報委員長の前委員長であった西川清史教授の後任として、1998年1月より同委員会の世話をさせていただいております。就任以来すでに6ヶ月を過ぎてはおりますが、ここに新任の挨拶を兼ねまして、巻頭言を述べさせていただきます。

まずは残念なことです。前委員長西川先生について悲しいご報告を申し上げなくてはなりません。西川先生はちょうど1年前(1997年)の8月15日に脳梗塞で急逝されました。これは基礎工学研究科のみならず大型計算機センターにとりましても、本当に大きな痛手でありました。特に、当大型計算機センターについては本誌1997年5月号(Vol. 27 No. 1 1997-5 第104号)の巻頭言において「大型計算機センターの役割」という題名で、大阪大学大型計算機センターが置かれている現状の分析と今後の方向性について西川先生の考えを述べられたところでした。その記事を今、読み返して見ましても、実に先見性に富んだ示唆が多く含まれており、大変参考になります。その実現に向けて、努力を開始された直後の出来事でした。昨年12月6日には大阪大学基礎工学部葬が、そして本年7月5日にはその一回忌法要が行われましたことをご報告しますと共に、改めてご冥福をお祈り致します。

次に、教育広報委員会委員長としてのメッセージを1つ述べさせていただきます。これは私のオリジナルではありませんで、先日(7月24日)、京都グランヴィア・ホテルで開催されたサン・マイクロシステム社主催のJapan ERC (Education and Research Conference) におけるVan Meyer氏の講演からの引用です。Meyer氏はその講演の中で「90年代はNetwork Computingの時代に入っており、そのNetwork ComputingのMegatrends(将来動向)は次の①～④の4点にまとめられる：①計算指向からデータ指向へとニーズがシフトすること、②システムを複雑にすることなくリソースの追加が行えること(スケーラビリティ)、③主要なサービスがまるで電話の感覚で利用できること、④百～10万のオーダーのユーザあるいはネットワークノードの管理ができること。そして、UC San Diegoのスーパーコンピュータ・センタではその取り組みが成功している。」と力説していたのが印象的でした。これらの指摘内容を強く意識することは大阪大学大型計算機センター、及び、その教育広報委員会にとってもやはり重要であります。今後、その方向に向けて活動を展開することで、少しでも皆様方のお役に立てれば幸いであると考えております。

(大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 菊野 亨)